

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-035881

(43)Date of publication of application : 07.02.1997

(51)Int.Cl.

H05B 41/24

(21)Application number : 07-184535

(71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC WORKS LTD

(22)Date of filing : 20.07.1995

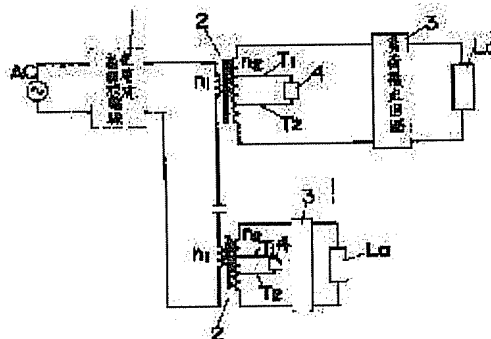
(72)Inventor : FUJIMOTO KOJI  
OKUDE AKIO  
HIRATOMO YOSHIMITSU  
ICHIMURA SHIYOUO  
KUDO YASUHIRO

## (54) LIGHTING SYSTEM

(57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a lighting system inexpensively with small size while a secondary side output of a current transformer can be low suppressed at no-load.

**SOLUTION:** A discharge lamp  $L_a$ , which is a load, and a load detecting circuit 3, which detects a condition of the discharge lamp  $L_a$  under no-load or the like, are connected in parallel to each other between both ends of a secondary winding  $n_2$  of a current transformer 2. Two intermediate taps  $T_1$ ,  $T_2$  are provided in the secondary winding  $n_2$  of the current transformer 2, and is provided a short-circuit 4 for short-circuiting between these intermediate taps  $T_1$ ,  $T_2$ . Accordingly, in an ordinary state, the short-circuit 4 is placed under an opened condition, and a secondary side output of the current transformer 2 is supplied to the discharge lamp  $L_a$  to light it. On the other hand, when no-load is detected in the load detecting circuit 3, the short-circuit 4 is operated to short-circuit between the intermediate taps  $T_1$ ,  $T_2$ , so that generating hazardous high voltage can be prevented. Here by providing the short-circuit 4 between the intermediate taps  $T_1$ ,  $T_2$ , withstand voltage required for the short-circuit 4 can be decreased.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision  
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's  
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-35881

(43) 公開日 平成9年(1997)2月7日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

H 0 5 B 41/24

識別記号

庁内整理番号

F I

H 0 5 B 41/24

技術表示箇所

G  
D

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願平7-184535

(22) 出願日 平成7年(1995)7月20日

(71) 出願人 000005832

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72) 発明者 藤本 幸司

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内

(72) 発明者 奥出 章雄

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内

(72) 発明者 平伴 喜光

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内

(74) 代理人 弁理士 石田 長七 (外2名)

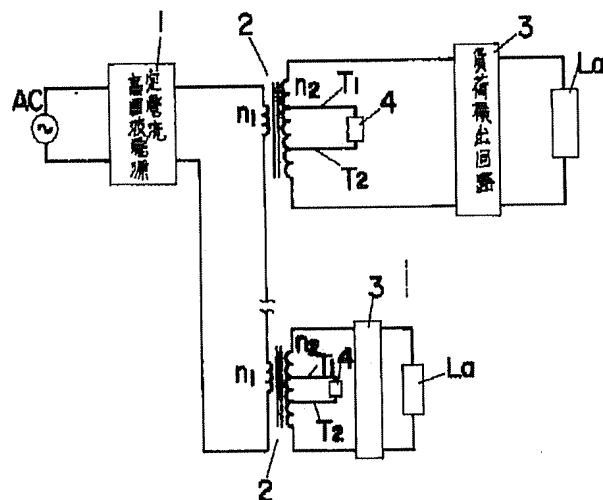
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 照明装置

(57) 【要約】

【課題】 無負荷時における電流トランスの2次側出力を低く抑えることができるとともに安価で且つ小型な照明装置を提供する。

【解決手段】 電流トランス2の2次巻線  $n_2$  の両端間には負荷である放電灯  $L_a$  と、無負荷等の放電灯  $L_a$  の状態を検出する負荷検出回路3とが互いに並列に接続されている。また、電流トランス2の2次巻線  $n_2$  には2つの中間タップ  $T_1$ 、 $T_2$  が設けてあり、この中間タップ  $T_1$ 、 $T_2$  間を短絡する短絡回路4を備えている。したがって、通常時には短絡回路4は開放状態であって電流トランス2の2次側出力が放電灯  $L_a$  に供給されて点灯する。一方、負荷検出回路3にて無負荷が検出されると短絡回路4が作動し、中間タップ  $T_1$ 、 $T_2$  間を短絡して危険な高電圧の発生を防止できる。ここで、短絡回路4が中間タップ  $T_1$ 、 $T_2$  間に設けられているため、短絡回路4に必要とされる耐圧を低下できる。



1 定電流高周波電源  
2 電流トランス  
3 負荷検出回路  
4 短絡回路  
 $T_1$ 、 $T_2$  中間タップ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 定電流高周波電源と、この定電流高周波電源の出力端間に 1 次巻線が直列に接続された 1 乃至複数の電流トランスと、各電流トランスの 2 次巻線の両端間に接続された 1 乃至複数の放電灯と、各電流トランスの 2 次巻線に 1 乃至複数設けられた中間タップ同士あるいは中間タップと 2 次巻線の一端とを短絡する 1 乃至複数の短絡回路と、各電流トランスの 2 次側出力に基づいて負荷である放電灯の状態を検出する 1 乃至複数の負荷検出回路とを備え、各負荷検出回路にて無負荷を検出したときに対応する短絡回路を動作させて各電流トランスの 2 次巻線の一部を短絡して成ることを特徴とする照明装置。

【請求項 2】 各短絡回路の入力側に整流回路を設けるとともに、電流トランスの 2 次側短絡経路をオン、オフする直流スイッチ素子を短絡回路に具備したことを特徴とする請求項 1 記載の照明装置。

【請求項 3】 各負荷検出回路は、電流トランスの 2 次巻線の両端電圧を検出することで放電灯の状態を検出し、検出電圧が所定値以上のときに短絡回路を動作させて成ることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の照明装置。

【請求項 4】 各電流トランスの両端間に順に第 1 乃至第 3 の中間タップを設け、第 1 及び第 3 の中間タップにそれぞれダイオードのアノードを接続するとともにこれら 2 つのダイオードのカソード同士を短絡回路の入力側の一端に共通接続し、短絡回路の入力側の他端を第 1 及び第 3 の中間タップの中心に設けられた第 2 の中間タップに接続するとともに、第 1 及び第 2 の中間タップ間に短絡回路と並列に負荷検出回路を設けて成ることを特徴とする請求項 1 ～ 3 記載の照明装置。

【請求項 5】 短絡回路が具備する直流スイッチ素子としてサイリスタを用いたことを特徴とする請求項 2 ～ 4 記載の照明装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、定電流高周波電源の出力を電流トランスを介して放電灯に供給し点灯させる照明装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】図 1 2 は、特開平 6-325886 号公報に記載された従来の照明装置の一例を示す回路図である。この照明装置は、商用電源 AC に接続された定電流高周波電源 1 の出力端に複数の電流トランス 2 の 1 次巻線  $n_1$  がそれぞれ直列に接続されており、かつ、各電流トランス 2 の 2 次巻線  $n_2$  の両端間に負荷である放電灯  $L_a$  が接続されている。すなわち、定電流高周波電源 1 から出力された高周波電流により各電流トランス 2 の 2 次巻線  $n_2$  にも高周波電流が誘起され、電流トランス 2 の 2 次側出力である上記高周波電流が各放電灯  $L_a$  に供

給されて各放電灯  $L_a$  が点灯されるようになっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、いずれかの電流トランス 2 の 2 次側に放電灯  $L_a$  が接続されていないような場合には、定電流高周波電源 1 により無負荷状態の電流トランス 2 にも高周波電流が供給されるために電流トランス 2 の 2 次側に高電圧が発生し、感電や電撃等の危険な状態が引き起こされる可能性を含んでいる。そこで、上記従来例では電流トランス 2 の 2 次巻線  $n_2$  の両端間に放電灯  $L_a$  と並列に負荷検出回路 3' がそれぞれ設けられており、この負荷検出回路 3' によって負荷である放電灯  $L_a$  の有無を検出し、無負荷時には電流トランス 2 の 2 次巻線  $n_2$  の両端間に接続された短絡回路 4' を動作させて電流トランス 2 の 2 次側を短絡し、高電圧の発生を防いで上述のような危険な状態が引き起こされるのを防止するようになっている。

【0004】しかしながら、上記従来構成では、短絡回路 4' において短絡経路をオン、オフするスイッチ手段 SW の両端には、放電灯  $L_a$  の始動時において始動に必要とされる高電圧がそのまま印加されることになるから、スイッチ手段 SW には上記始動時の高電圧以上の耐圧を有するものを用いなければならず、回路全体の大型化やコストアップにつながるという問題があった。

【0005】本発明は上記問題に鑑みて為されたものであり、その目的とするところは、無負荷時における電流トランスの 2 次側出力を低く抑えることができるとともに安価で且つ小型な照明装置を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】請求項 1 の発明は、上記目的を達成するために、定電流高周波電源と、この定電流高周波電源の出力端間に 1 次巻線が直列に接続された 1 乃至複数の電流トランスと、各電流トランスの 2 次巻線の両端間に接続された 1 乃至複数の放電灯と、各電流トランスの 2 次巻線に 1 乃至複数設けられた中間タップ同士あるいは中間タップと 2 次巻線の一端とを短絡する 1 乃至複数の短絡回路と、各電流トランスの 2 次側出力に基づいて負荷である放電灯の状態を検出する 1 乃至複数の負荷検出回路とを備え、各負荷検出回路にて無負荷を検出したときに対応する短絡回路を動作させて各電流トランスの 2 次巻線の一部を短絡して成るものであり、電流トランスの 2 次側に負荷である放電灯が接続されていないような無負荷状態のときには短絡回路にて電流トランスの 2 次側の一部を短絡させることで高電圧の発生を防止し、しかも、正常な状態では短絡回路が電流トランスの 2 次巻線に設けられた中間タップ同士あるいは中間タップと 2 次巻線の一端との間に設けられていることから、放電灯の始動時において短絡回路に印加される電圧を始動に必要とする高電圧よりも低下させることができる。

【0007】請求項 2 の発明は、請求項 1 の発明におい

て、各短絡回路の入力側に整流回路を設けるとともに、電流トランスの2次側短絡経路をオン、オフする直流スイッチ素子を短絡回路に具備したものであり、無負荷時には直流スイッチ素子がオンされることで電流トランスの2次側の一部が短絡されて高電圧の発生が防止され、しかも、直流スイッチ素子の耐圧は放電灯の始動電圧よりも低く抑えることができ、回路構成の簡素化とコストダウンとを図ることができる。

【0008】請求項3の発明は、請求項1又は2の発明において、各負荷検出回路が、電流トランスの2次巻線の両端電圧を検出することで放電灯の状態を検出し、検出電圧が所定値以上のときに短絡回路を動作させて成るものであり、負荷検出回路の構成を簡素化して小型化とコストダウンとを図れる。請求項4の発明は、請求項1～3の発明において、各電流トランスの両端間に順に第1乃至第3の中間タップを設け、第1及び第3の中間タップにそれぞれダイオードのアノードを接続するとともにこれら2つのダイオードのカソード同士を短絡回路の入力側の一端に共通接続し、短絡回路の入力側の他端を第1及び第3の中間タップの midpoint に設けられた第2の中間タップに接続するとともに、第1及び第2の中間タップ間に短絡回路と並列に負荷検出回路を設けて成るものであり、負荷検出回路に印加される電圧も低下させることができ、負荷検出回路に使用する回路素子の耐圧を低くすることができる。

【0009】請求項5の発明は、請求項2～4の発明において、短絡回路が具備する直流スイッチ素子としてサイリスタを用いたものであり、短絡状態を保持するための回路が必要でなくなり、小型化とコストダウンを図れる。

【0010】

【発明の実施の形態】

（実施形態1）図1は本発明の第1の実施形態を示す回路ブロック図である。商用交流電源ACに接続された定電流高周波電源1の出力端間には、複数の電流トランス2の1次巻線 $n_1$ が互いに直列に接続されている。そして、各電流トランス2の2次巻線 $n_2$ の両端間には負荷である放電灯Laと、無負荷等の放電灯Laの状態を検出する負荷検出回路3とが並列に接続されている。さらに、本発明においては、電流トランス2の2次巻線 $n_2$ に2つの中間タップ $T_1$ 、 $T_2$ を設けるとともに、これら中間タップ $T_1$ 、 $T_2$ 間を短絡する短絡回路4を設けてある。

【0011】図2は負荷検出回路3及び短絡回路4の詳細な回路図を示すものであり、短絡回路4は負荷検出回路3が具備するリレーRyのノーマリオフ接点rにて構成され、このノーマリオフ接点rが電流トランス2の2次巻線 $n_2$ の中間タップ $T_1$ 、 $T_2$ 間に接続されている。ここで、1次巻線 $n_1$ の巻数を $N_1$ 、2次巻線 $n_2$ の一端（図中の点イ）から一方の中間タップ $T_1$ までの

巻数を $N_2$ 、中間タップ $T_1$ 、 $T_2$ 間の巻数を $N_3$ 、中間タップ $T_2$ から2次巻線 $n_2$ の他端（図中の点ロ）までの巻数を $N_4$ とする。

【0012】一方、負荷検出回路3は、電流トランス2の2次巻線 $n_2$ の両端に入力側が接続されたダイオードブリッジDBと、ダイオードブリッジDBの脈流出力を平滑する平滑コンデンサ $C_0$ と、平滑コンデンサ $C_0$ と並列に接続された抵抗 $R_1$ 、 $R_2$ の直列回路と、抵抗 $R_3$ 及びツェナーダイオードZD $_1$ を介して抵抗 $R_1$ 、 $R_2$ の接続点にゲートが接続されたサイリスタThと、このサイリスタThのアノード・カソード間に抵抗 $R_4$ 及び直流電源5とともに直列に接続されたリレーRyとを備えている。なお、直流電源5は正極側が抵抗 $R_4$ を介してリレーRy及びサイリスタThのアノードに接続され、負極側がダイオードブリッジDBの負極側の出力端に接続されている。また、ツェナーダイオードZD $_1$ は、サイリスタThのゲートにアノードが、抵抗 $R_3$ を介して抵抗 $R_1$ 、 $R_2$ の接続点にカソードがそれぞれ接続されている。なお、各電流トランス2に接続される負荷検出回路3等の構成は共通であるから、図においては1つの電流トランス2についてのみ図示し、他の電流トランス2に関しては図示及び説明は省略する。

【0013】次に、上記回路構成における動作について、図3のタイムチャートを参照しながら説明する。なお、図3（a）は電流トランス2の2次巻線 $n_2$ 間（図2における点イ・点ロ間）の両端電圧すなわち電流トランス2の出力電圧 $V_2$ 、同図（b）はこの出力電圧 $V_2$ がダイオードブリッジDB及び平滑コンデンサ $C_0$ にて整流平滑された後の直流電圧を分圧した検出電圧VaとツェナーダイオードZD $_1$ のツェナー電圧Vz、同図（c）はサイリスタThのゲートに印加されるトリガ信号、同図（d）はリレーRyの励磁電流をそれぞれ示している。

【0014】ここで、時刻 $t_1$ において始動を開始したとすると電流トランス2の出力電圧 $V_2$ は放電灯Laの始動に必要な高電圧まで上昇する。このとき、検出電圧Vaは平滑コンデンサ $C_0$ と分圧抵抗 $R_1$ 、 $R_2$ の時定数により決まるカーブで上昇するため、出力電圧 $V_2$ に比較して検出電圧Vaの上昇の仕方は緩やかとなる。そして、放電灯Laが始動すると出力電圧 $V_2$ は下降して放電灯Laを定常点灯させるための一定電圧となる（時刻 $t_2$ 以降）。このとき、検出電圧Vaはツェナー電圧Vzにまで達しないためにサイリスタThがトリガされず、したがって、リレーRyには励磁電流は流れないからノーマリオフ接点rは開成されており、放電灯Laは点灯状態を維持することになる。

【0015】一方、放電灯Laが電流トランス2の2次側から取り外されたり、放電灯Laの寿命によりフィラメントが断線して不点灯になる等の無負荷状態になった場合（時刻 $t_3$ ）には出力電圧 $V_2$ が上昇し、これによ

り、検出電圧 $V_a$ も上昇してツェナー電圧 $V_z$ に達してツェナーダイオード $ZD_1$ が導通しサイリスタ $Th$ のゲートにトリガ信号が入力される(時刻 $t_4$ )。その結果、サイリスタ $Th$ がターンオンして直流電源5によりリレー $R_y$ に励磁電流が供給され、短絡回路4が作動されてノーマリオフ接点 $r$ がオン(閉成)となるから、電流トランス2の中間タップ $T_1$ 、 $T_2$ 間が短絡され、電流トランス2の2次巻線 $n_2$ の両端間に高電圧が発生するのを防止でき、また、万一人が無負荷状態の出力端(電流トランス2の2次側)に触れた場合にも電撃を受けることがなく、照明装置としての安全性を向上させることができる。

【0016】ここで、短絡回路4に用いられるノーマリオフ接点 $r$ の耐圧は、放電灯 $La$ の始動時の高電圧に耐え得る必要がある。したがって、ノーマリオフ接点 $r$ の耐圧を $V_r$ 、放電灯 $La$ の始動電圧を $V_s$ とすれば下式を満足するように決定すればよい。

$$V_r > V_s \cdot N_3 / (N_2 + N_3 + N_4)$$

例えば、 $V_s = 1.4 \text{ kV}$ 、 $N_2 = N_4$ 、 $N_2 : N_3 = 1 : 2$ とすれば、

$$V_r > 1400 / 2 = 700$$

となり、ノーマリオフ接点 $r$ に必要な耐圧を従来例における耐圧の略半分の700Vにまで下げることができる。すなわち、ノーマリオフ接点 $r$ には従来より耐圧の低いものを用いることができるため、回路の小型化及びコストダウンを図ることができるのである。

【0017】(実施形態2)図4は本発明の第2の実施形態を示す回路ブロック図である。本実施形態の基本的な構成は実施形態1と共通であるから、共通する部分には同一の符号を付して説明は省略し、本実施形態の特徴となる部分についてのみ説明する。すなわち、本実施形態における照明装置では、電流トランス2の2次巻線 $n_2$ に3つの中間タップ $T_1 \sim T_3$ を設けるとともに、両側の中間タップ $T_1$ 、 $T_3$ にそれぞれダイオード $D_1$ 、 $D_2$ のアノードを接続し、これらダイオード $D_1$ 、 $D_2$ のカソード同士の間を接続点と残りの真中の中間タップ $T_2$ との間に短絡回路11が接続されている。ここで、中間タップ $T_2$ は他の中間タップ $T_1$ 、 $T_3$ の midpoint に設けてある( $N_3 = N_4$ )。なお、負荷検出回路10及び放電灯 $La$ は2次巻線 $n_2$ の両端間に並列に接続されている。

【0018】図5は上記照明装置における負荷検出回路10等の要部を示す回路図である。負荷検出回路10の入力端には、一対のダイオード $D_3$ 、 $D_4$ が接続されており、これらのダイオード $D_3$ 、 $D_4$ によって負荷検出回路10への入力力が半波整流されている。また、ダイオード $D_3$ 、 $D_4$ のカソード・アノード間には抵抗 $R_5$ 、 $R_6$ の直列回路と、フォトカプラPCを構成する発光ダイオードLD及びトランジスタ $Q_1$ の直列回路とが互いに並列に接続されている。そして、抵抗 $R_5$ 、 $R_6$ の接

続点とトランジスタ $Q_1$ のベースとが抵抗 $R_7$ 及びツェナーダイオード $ZD_2$ を介して接続されている。なお、抵抗 $R_6$ にはコンデンサ $C_1$ が並列に接続されている。

【0019】一方、短絡回路11はフォトカプラPCを構成するフォトトランジスタPTと、トランス6とを備え、共通接続されたダイオード $D_1$ 、 $D_2$ のカソードにフォトトランジスタPTのコレクタ及びトランス6の1次側の一端が接続されている。このトランス6の1次側の他端にはFETから成るスイッチング素子 $Q_2$ のドレインが接続されるとともに、スイッチング素子 $Q_2$ のソースは電流トランス2の2次巻線 $n_2$ の真中の中間タップ $T_2$ に接続されている。また、フォトトランジスタPTのエミッタが抵抗 $R_8$ 、 $R_9$ の直列回路を介してスイッチング素子 $Q_2$ のソースに接続され、この抵抗 $R_8$ 、 $R_9$ の接続点とスイッチング素子 $Q_2$ のゲートとが抵抗 $R_{10}$ を介して接続されている。さらに、トランス6の2次側の一端はダイオード $D_5$ を介して抵抗 $R_8$ 、 $R_9$ の接続点に、他端はスイッチング素子 $Q_2$ のソースにそれぞれ接続されている。

【0020】次に、上記回路構成における動作について、図6のタイムチャートを参照しながら説明する。なお、図6(a)は電流トランス2の2次巻線 $n_2$ 間の両端電圧すなわち電流トランス2の出力電圧 $V_2$ 、同図

(b)はこの出力電圧 $V_2$ がダイオード $D_3$ 、 $D_4$ にて半波整流された後の直流電圧を分圧した検出電圧 $V_a$ とツェナーダイオード $ZD_2$ のツェナー電圧 $V_z$ 、同図

(c)はトランジスタ $Q_1$ のベース信号、同図(d)はスイッチング素子 $Q_2$ のゲート信号をそれぞれ示している。

【0021】ここで、時刻 $t_1$ において始動を開始したとすると電流トランス2の出力電圧 $V_2$ は放電灯 $La$ の始動に必要な高電圧まで上昇する。このとき、検出電圧 $V_a$ はコンデンサ $C_1$ と分圧抵抗 $R_5$ の定数により決まるカーブで上昇するため、出力電圧 $V_2$ と比較して検出電圧 $V_a$ の上昇の仕方は緩やかとなる。そして、放電灯 $La$ が始動すると出力電圧 $V_2$ は下降して放電灯 $La$ を定常点灯させるための一定電圧となる(時刻 $t_2$ 以降)。このとき、検出電圧 $V_a$ はツェナー電圧 $V_z$ にまで達しないためにトランジスタ $Q_1$ はオンせず、したがって、フォトカプラPCもオンしないためにスイッチング素子 $Q_2$ はオフのままであり、放電灯 $La$ は点灯状態を維持することになる。

【0022】一方、放電灯 $La$ が電流トランス2の2次側から取り外されたり、放電灯 $La$ の寿命によりフィラメントが断線して不点灯になる等の無負荷状態になった場合(時刻 $t_3$ )には出力電圧 $V_2$ が上昇し、これにより、検出電圧 $V_a$ も上昇してツェナー電圧 $V_z$ に達してツェナーダイオード $ZD_2$ が導通し、トランジスタ $Q_1$ のベースに電流が供給されてトランジスタ $Q_1$ がオンとなる(時刻 $t_4$ )。よって、フォトカプラPCもオンと

なり、スイッチング素子 $Q_2$ のゲートに電流が供給されてスイッチング素子 $Q_2$ もオンする。その結果、電流トランス2の2次側の一部がダイオード $D_1$ 、 $D_2$ 、トランス6の1次側及びスイッチング素子 $Q_2$ によって短絡されることになり、電流トランス2の2次側に高電圧が発生するのを防止することができる。なお、短絡電流によってトランス6の2次側に誘起される電流がスイッチング素子 $Q_2$ のゲートに供給され、一旦オンしたスイッチング素子 $Q_2$ のオン状態が上記誘起電流により保持されるようになっている。

【0023】上述の本実施形態によれば、実施形態1と比較してリレー $R_y$ 等を用いないことから回路構成の簡素化、小型化及びコストダウンを図ることができるという利点がある。

(実施形態3) 図7は本発明の第3の実施形態を示す回路ブロック図である。本実施形態の基本的な構成は実施形態2と共通であるから、共通する部分には同一の符号を付して説明は省略し、本実施形態の特徴となる部分についてのみ説明する。すなわち、本実施形態における照明装置では、短絡回路13と並列に負荷検出回路12を設け、電流トランス2の2次巻線 $n_2$ に設けられた3つの中間タップ $T_1 \sim T_3$ から取り出した電圧により放電灯 $L_a$ の状態を検出するようにしている。なお、電流トランス2の2次巻線 $n_2$ の両端及び各中間タップ $T_1 \sim T_3$ 間の巻数比は、 $N_2 = N_5$ 、 $N_3 = N_4$ となっている。

【0024】図8は上記照明装置における負荷検出回路12等の要部を示す回路図である。短絡回路13は共通接続されたダイオード $D_1$ 、 $D_2$ のカソードにトランス6の1次側の一端が接続され、このトランス6の1次側の他端にはFETから成るスイッチング素子 $Q_2$ のドレインが接続されるとともに、スイッチング素子 $Q_2$ のソースは電流トランス2の2次巻線 $n_2$ の真中の中間タップ $T_2$ に接続されている。また、トランス6の2次側の一端はダイオード $D_5$ 及び抵抗 $R_{10}$ を介してスイッチング素子 $Q_2$ のゲートに、他端はスイッチング素子 $Q_2$ のソースにそれぞれ接続されている。

【0025】一方、負荷検出回路12は抵抗 $R_{11}$ 、 $R_{12}$ 、コンデンサ $C_2$ 及びツェナーダイオード $ZD_3$ を具備し、電流トランス2の中間タップ $T_2$ と、共通接続されたダイオード $D_1$ 、 $D_2$ のカソードとの間に抵抗 $R_{11}$ 、 $R_{12}$ の直列回路が短絡回路13と並列に接続され、抵抗 $R_{11}$ 、 $R_{12}$ の接続点にツェナーダイオード $ZD_3$ のカソード及びコンデンサ $C_2$ の一端が接続されるとともに、ツェナーダイオード $ZD_3$ のアノードが短絡回路13のダイオード $D_5$ と抵抗 $R_{10}$ との接続点に接続されている。

【0026】次に、上記回路構成における動作について、図9のタイムチャートを参照しながら説明する。なお、図9(a)は電流トランス2の2次巻線 $n_2$ 間の両

端電圧すなわち電流トランス2の出力電圧 $V_2$ 、同図

(b)はこの出力電圧 $V_2$ がダイオード $D_1$ 、 $D_2$ にて整流された後の直流電圧を分圧した検出電圧 $V_a$ とツェナーダイオード $ZD_3$ のツェナー電圧 $V_z$ 、同図(c)はスイッチング素子 $Q_2$ のゲート信号をそれぞれ示している。

【0027】ここで、時刻 $t_1$ において始動を開始したとすると電流トランス2の出力電圧 $V_2$ は放電灯 $L_a$ の始動に必要な高電圧まで上昇する。このとき、検出電圧 $V_a$ はコンデンサ $C_2$ と分圧抵抗 $R_{11}$ 、 $R_{12}$ の時定数により決まるカーブで上昇するため、出力電圧 $V_2$ に比較して検出電圧 $V_a$ の上昇の仕方は緩やかとなる。そして、放電灯 $L_a$ が始動すると出力電圧 $V_2$ は下降して放電灯 $L_a$ を定常点灯させるための一定電圧となる(時刻 $t_2$ 以降)。このとき、検出電圧 $V_a$ はツェナー電圧 $V_z$ にまで達しないためにスイッチング素子 $Q_2$ はオンせず、放電灯 $L_a$ は点灯状態を維持することになる。

【0028】一方、放電灯 $L_a$ が電流トランス2の2次側から取り外されたり、放電灯 $L_a$ の寿命によりフィラメントが断線して不点灯になる等の無負荷状態になった場合(時刻 $t_3$ )には出力電圧 $V_2$ が上昇し、これにより、検出電圧 $V_a$ も上昇してツェナー電圧 $V_z$ に達してツェナーダイオード $ZD_3$ が導通し、スイッチング素子 $Q_2$ のゲートに電流が供給されてスイッチング素子 $Q_2$ がオンする。その結果、電流トランス2の2次側の一部がダイオード $D_1$ 、 $D_2$ 、トランス6の1次側及びスイッチング素子 $Q_2$ によって短絡されることになり、電流トランス2の2次側に高電圧が発生するのを防止することができる。なお、短絡電流によってトランス6の2次側に誘起される電流がスイッチング素子 $Q_2$ のゲートに供給され、一旦オンしたスイッチング素子 $Q_2$ のオン状態が上記誘起電流により保持されるようになっている。

【0029】上述した本実施形態によれば、電流トランス2の中間タップ $T_1$ 、 $T_2$ から取った出力によって負荷検出回路12により負荷検出を行っているため、負荷検出回路12を構成する回路素子に要求される耐圧を低下させることができ、このことによっても回路の小型化とコストダウンとが図れるものである。

(実施形態4) 図10は本発明の第4の実施形態を示す回路ブロック図である。本実施形態の基本的な構成は実施形態3と共通であるから、共通する部分には同一の符号を付して説明は省略する。

【0030】図10に示すように、電流トランス2の2次巻線 $n_2$ の両端には放電灯 $L_a$ のフィラメントの一端がそれぞれ接続され、各フィラメントの両端間にはそれぞれコンデンサ $C_3$ 、 $C_4$ が接続されるとともに、両フィラメント間にコンデンサ $C_5$ が接続されている。なお、電流トランス2の2次巻線 $n_2$ の両端及び各中間タップ $T_1 \sim T_3$ 間の巻数比は、 $N_2 = N_5$ 、 $N_3 = N_4$ となっている。

【0031】短絡回路15は共通接続されたダイオード $D_1$ 、 $D_2$ のカソードにアノードが接続されたサイリスタSCRを備え、このサイリスタSCRのカソードは電流トランス2の2次巻線 $n_2$ の真中の中間タップ $T_2$ に接続されている。また、サイリスタSCRのゲート・カソード間には抵抗 $R_{13}$ が接続されるとともにゲートは抵抗 $R_{14}$ を介して後述する負荷検出回路14のダイアック $Q_3$ に接続されている。

【0032】一方、電流トランス2の中間タップ $T_2$ とダイオード $D_1$ 、 $D_2$ のカソードとに接続された負荷検出回路14の入力端間には、抵抗 $R_{15}$ 、 $R_{16}$ の直列回路と、抵抗 $R_{17}$ 、 $R_{18}$ の直列回路と、抵抗 $R_{19}$ 、 $R_{20}$ の直列回路とが互いに並列に接続されている。抵抗 $R_{15}$ 、 $R_{16}$ の接続点にはダイアック $Q_3$ の一端と、トランジスタ $Q_4$ のコレクタとが接続されている。また、抵抗 $R_{16}$ に並列にこのトランジスタ $Q_4$ 及びコンデンサ $C_6$ が接続され、トランジスタ $Q_4$ のベースが抵抗 $R_{17}$ 、 $R_{18}$ の接続点に接続されている。さらに、これらの抵抗 $R_{17}$ 、 $R_{18}$ の接続点にはトランジスタ $Q_5$ のコレクタが接続され、このトランジスタ $Q_5$ のベースが抵抗 $R_{21}$ 及びツェナーダイオード $ZD_4$ を介して抵抗 $R_{19}$ 、 $R_{20}$ の接続点に接続されている。トランジスタ $Q_5$ のベース・エミッタ間には抵抗 $R_{22}$ が接続され、抵抗 $R_{20}$ に並列にコンデンサ $C_7$ が接続されている。

【0033】次に、上記回路構成における動作について、図11のタイムチャートを参照しながら説明する。なお、図11(a)は電流トランス2の2次巻線 $n_2$ 間の両端電圧すなわち電流トランス2の出力電圧 $V_2$ 、同図(b)はこの出力電圧 $V_2$ がダイオード $D_1$ 、 $D_2$ にて整流された後の直流電圧を抵抗 $R_{19}$ 、 $R_{20}$ により分圧した検出電圧 $V_a$ とツェナーダイオード $ZD_3$ のツェナー電圧 $V_z$ 、同図(c)はトランジスタ $Q_5$ のベース信号、同図(d)はトランジスタ $Q_4$ のベース信号、同図(e)は短絡回路15のサイリスタSCRのトリガ信号をそれぞれ示している。

【0034】ここで、時刻 $t_1$ において始動を開始したとすると電流トランス2の出力電圧 $V_2$ は放電灯Laの始動に必要な高電圧まで上昇する。このとき、検出電圧 $V_a$ はコンデンサ $C_7$ と分圧抵抗 $R_{19}$ 、 $R_{20}$ の時定数により決まるカーブで上昇するため、出力電圧 $V_2$ に比較して検出電圧 $V_a$ の上昇の仕方は緩やかとなる。そして、放電灯Laが始動すると出力電圧 $V_2$ は下降して放電灯Laを定常点灯させるための一定電圧となる(時刻 $t_2$ 以降)。このとき、始動から定常点灯に至るまでの間(時刻 $t_1 \sim t_2$ )には検出電圧 $V_a$ はツェナー電圧 $V_z$ にまで達しないためにトランジスタ $Q_5$ はオンせず、したがって、トランジスタ $Q_4$ はオンのままとなり、ダイアック $Q_3$ がターンオンされないで短絡回路15のサイリスタSCRにもトリガ信号は印加されず、放電灯Laは点灯状態を維持することになる。

【0035】一方、放電灯Laが電流トランス2の2次側から取り外されたり、放電灯Laの寿命によりフィラメントが断線して不点灯になる等の無負荷状態になった場合(時刻 $t_3$ )には出力電圧 $V_2$ が上昇し、これにより、検出電圧 $V_a$ も上昇してツェナー電圧 $V_z$ に達してツェナーダイオード $ZD_4$ が導通し、トランジスタ $Q_5$ のベースに電流が供給されてトランジスタ $Q_5$ がオンとなる(時刻 $t_4$ )。よって、トランジスタ $Q_4$ がオフとなり、抵抗 $R_{15}$ 、 $R_{16}$ の分圧電圧によってダイアック $Q_3$ がターンオンされる。その結果、短絡回路15のサイリスタSCRのゲートにダイアック $Q_3$ を介してトリガ信号が印加されてサイリスタSCRがターンオンするので、電流トランス2の2次側の一部がダイオード $D_1$ 、 $D_2$ 、サイリスタSCRによって短絡されることになり、電流トランス2の2次側に高電圧が発生するのを防止することができる。なお、サイリスタSCRがターンオンすると抵抗 $R_{15}$ 、 $R_{16}$ の直列回路の両端間も略短絡状態になるためにダイアック $Q_3$ がターンオフしてサイリスタSCRのゲートに電流が供給されなくなるが、サイリスタSCRに供給される電流が全波整流された脈流の高周波電流であることから、サイリスタSCRのオン状態が上記高周波電流により維持されることになる。したがって、短絡回路15における短絡経路をオン・オフするスイッチ手段としてサイリスタSCRを用いれば、先に示した実施形態3における照明装置に比較してトランス6などの大型部品が必要でなくなり、照明装置の小型化を図ることができる。

【0036】ここで、短絡回路15に用いられるサイリスタSCRの耐圧は、放電灯Laの始動時の高電圧に耐え得る必要があり、したがって、サイリスタSCRの耐圧を $V_{s0}$ 、放電灯Laの始動電圧を $V_s$ とすれば下式を満足するように決定すればよい。例えば、 $V_{s0} = 1.4 \text{ kV}$ 、 $N_2 = N_5$ 、 $N_3 = N_4$ 、 $N_2 : N_3 = 2 : 5$ とすれば、 $V_{s0} > 1400 / 2 \cdot N_3 / (N_2 + N_3) = 500$ となり、サイリスタSCRに必要な耐圧としては500V以上であればよく、回路の小型化及びコストダウンを図ることができるのである。

【0037】

【発明の効果】請求項1の発明は、定電流高周波電源と、この定電流高周波電源の出力端間に1次巻線が直列に接続された1乃至複数の電流トランスと、各電流トランスの2次巻線の両端間に接続された1乃至複数の放電灯と、各電流トランスの2次巻線に1乃至複数設けられた中間タップ同士あるいは中間タップと2次巻線の一端とを短絡する1乃至複数の短絡回路と、各電流トランスの2次側出力に基づいて負荷である放電灯の状態を検出する1乃至複数の負荷検出回路とを備え、各負荷検出回路にて無負荷を検出したときに対応する短絡回路を動作させて各電流トランスの2次巻線の一部を短絡して成る



ものであり、電流トランスの2次側に負荷である放電灯が接続されていないような無負荷状態のときには短絡回路にて電流トランスの2次側の一部を短絡させることで高電圧の発生を防止して無負荷時の安全性を向上することができ、しかも、正常な状態では短絡回路が電流トランスの2次巻線に設けられた中間タップ同士あるいは中間タップと2次巻線の一端との間に設けられていることから、放電灯の始動時において短絡回路に印加される電圧を始動に必要とする高電圧よりも低下させることができ、その結果、回路全体の小型化とコストダウンとを図ることができるという効果がある。

【0038】請求項2の発明は、各短絡回路の入力側に整流回路を設けるとともに、電流トランスの2次側短絡経路をオン、オフする直流スイッチ素子を短絡回路に具備したものであり、無負荷時には直流スイッチ素子がオンされることで電流トランスの2次側の一部が短絡されて高電圧の発生が防止され、しかも、直流スイッチ素子の耐圧は放電灯の始動電圧よりも低く抑えることができ、回路構成の簡素化とコストダウンとを図ることができるという効果がある。

【0039】請求項3の発明は、各負荷検出回路が、電流トランスの2次巻線の両端電圧を検出することで放電灯の状態を検出し、検出電圧が所定値以上のときに短絡回路を動作させて成るものであり、負荷検出回路の構成を簡素化して小型化とコストダウンとが図れるという効果がある。請求項4の発明は、各電流トランスの両端間に順に第1乃至第3の中間タップを設け、第1及び第3の中間タップにそれぞれダイオードのアノードを接続するとともにこれら2つのダイオードのカソード同士を短絡回路の入力側の一端に共通接続し、短絡回路の入力側の他端を第1及び第3の中間タップの midpoint に設けられた第2の中間タップに接続するとともに、第1及び第2の中間タップ間に短絡回路と並列に負荷検出回路を設けて成るものであり、負荷検出回路に印加される電圧も低下

させることができ、負荷検出回路に使用する回路素子の耐圧を低くすることができるという効果がある。

【0040】請求項5の発明は、短絡回路が具備する直流スイッチ素子としてサイリスタを用いたものであり、短絡状態を保持するための回路が必要でなくなり、小型化とコストダウンが図れるという効果がある。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施形態を示す回路ブロック図である。

【図2】同上の要部を示す回路図である。

【図3】同上の動作を説明するためのタイムチャートである。

【図4】本発明の第2の実施形態を示す回路ブロック図である。

【図5】同上の要部を示す回路図である。

【図6】同上の動作を説明するためのタイムチャートである。

【図7】本発明の第3の実施形態を示す回路ブロック図である。

【図8】同上の要部を示す回路図である。

【図9】同上の動作を説明するためのタイムチャートである。

【図10】本発明の第4の実施形態を示す回路ブロック図である。

【図11】同上の動作を説明するためのタイムチャートである。

【図12】従来例を示す回路ブロック図である。

#### 【符号の説明】

1 定電流高周波電源

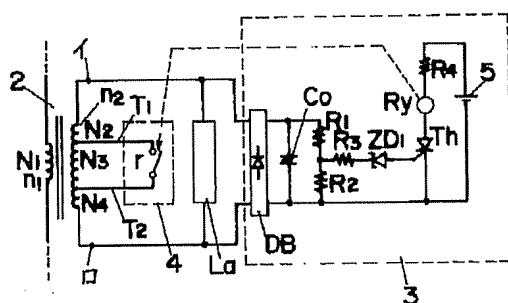
2 電流トランス

3 負荷検出回路

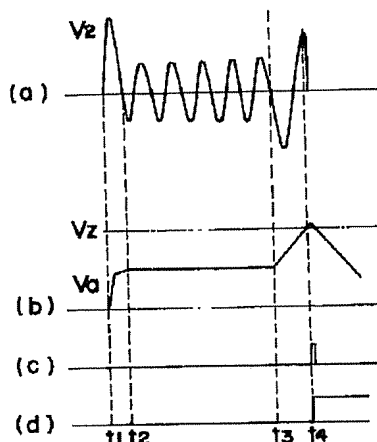
4 短絡回路

$T_1$ 、 $T_2$  中間タップ

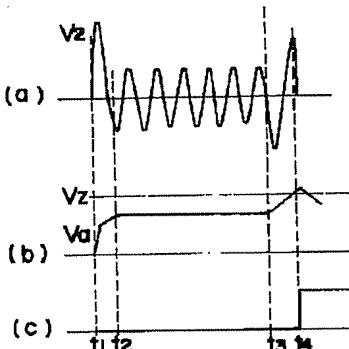
【図2】



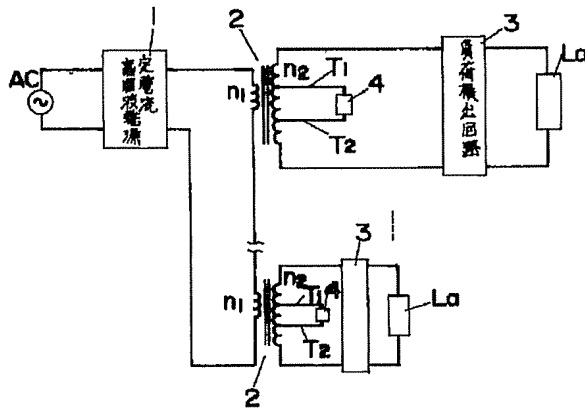
【図3】



【図9】

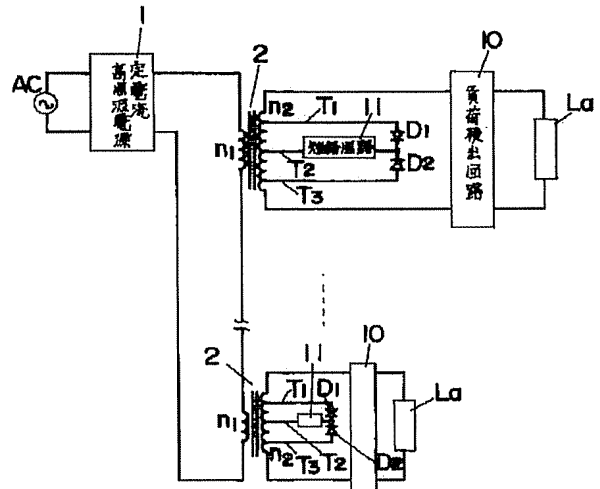


【図1】



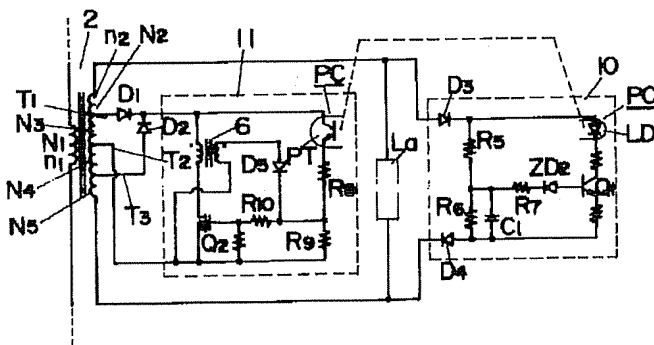
1 定電流高周波電源  
2 電流トランス  
3 負荷検出回路  
4 短絡回路  
T<sub>1</sub>, T<sub>2</sub> 中間タップ

【図4】

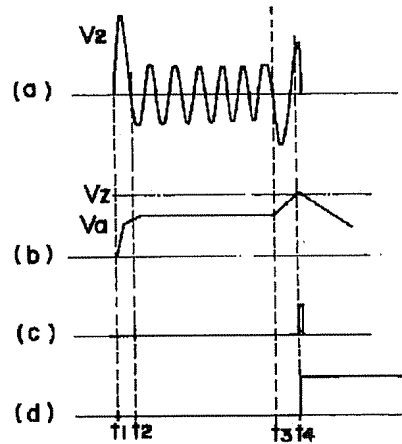


【図6】

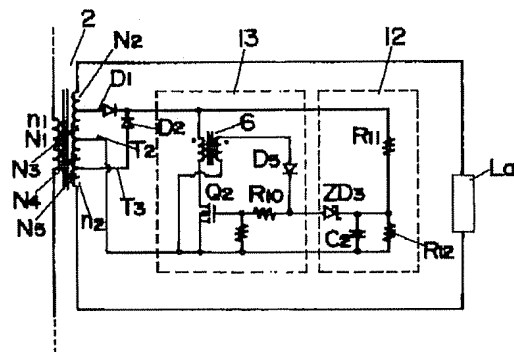
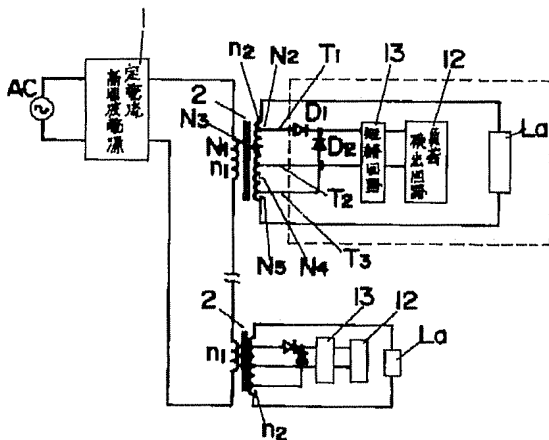
【図5】



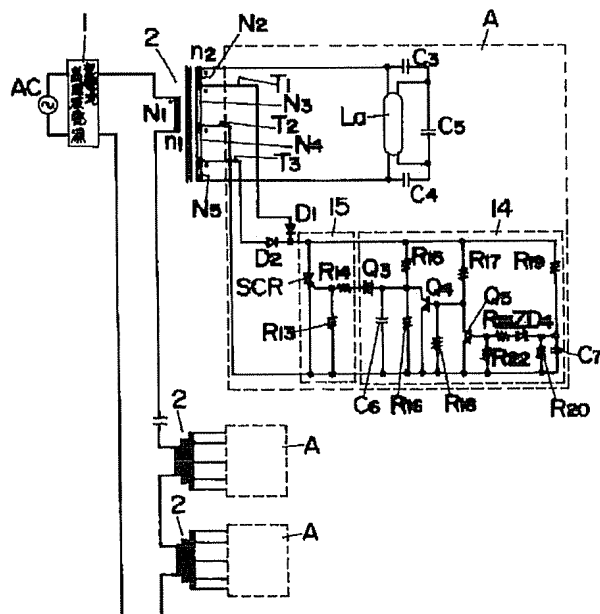
【図7】



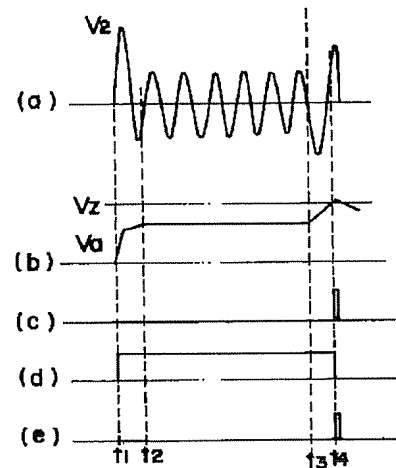
【図8】



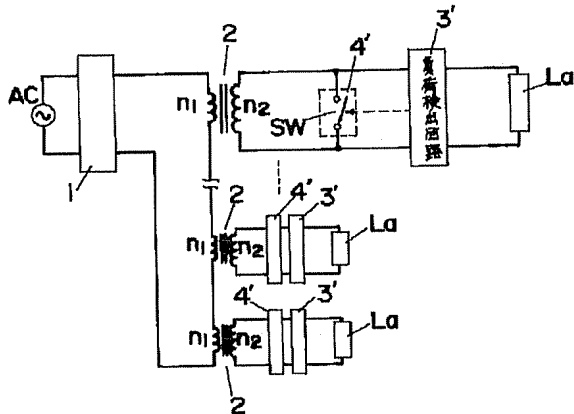
【图 10】



【图 1-1】



【图 1 2】



フロントページの続き

(72)発明者 一村 省互  
大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株  
式会社内

(72) 発明者 工藤 康宏  
大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株  
式会社内